

**JJA
JEWELLERY
DESIGN
AWARDS
2010**



日本ジュエリーの最高峰を求めて
JJA ジュエリーデザインアワード 2010

時を超え人々の心を魅了してやまないジュエリーの数々。

ジュエリーは、創作する人の感性と装う人の感性が結びつき響き合うことによって生まれるアートと言えます。

真に美しい作品は国境を越え、人々の心に共感と感動を呼び起こします。我が国のジュエリーの歴史は決して長いものではありませんが、固有の美しい文化と伝統を背景に未来を見つめた新しいジュエリーを求めていかなければなりません。

“JJA ジュエリーデザインアワード2010”は、日本ジュエリー文化の高揚を目的に「世界へ発信できる日本ジュエリーの最高峰を求めて」をテーマに毎年開催されています。

JJA ジュエリーデザインアワードでは、カテゴリーでジュエリーを装うシチュエーションによって分類したところに特徴があります。

第1部門“フォーマルシーン”は、パーティーやフォーマルなど豪華でファッショナブルな装いに相応しい華やかさと気品に溢れたジュエリーとし、第2部門“カジュアルシーン”は、オフィスやプライベートな場面で自己の感性を表現し、遊び心を楽しませるような洗練されたジュエリーとしています。

また、本年より新設された第3部門“テーマ部門”では、本年のテーマを「パールジュエリー」とし、真珠の魅力がデザイン、技術で表現されているジュエリーとし、第4部門“新人部門”では、新人・学生を対象に自由な発想を持った既成の概念を打ち破る新しい大胆な発想のジュエリーと位置づけています。

JJA ジュエリーデザインアワードは、未来のジュエリー業界を担う新しい可能性を持つクリエイターたちの優れた作品を発信する場として、世界に向けた日本のジュエリー文化のさらなる発展を求め続けます。

主催 社団法人日本ジュエリー協会

後援 経済産業省

厚生労働省

東京都

協賛 社団法人日本ジュウリーデザイナー協会

社団法人日本真珠振興会

プラチナ・ギルド・インターナショナル

**JJA
JEWELLERY
DESIGN
AWARDS
2010**



ご挨拶



社団法人日本ジュエリー協会
会長

堀 奉之
Hori Tomoyuki

社団法人日本ジュエリー協会（JJA）では、ジュエリー文化の高揚を図るとともに日本のジュエリーの質の高さを世界に発信できる絶好の機会ととらえ、毎年「JJA ジュエリーデザインアワード」を開催しています。

本年も当コンテストには、個性溢れた優秀な作品の応募が多数ありました。製作者の思いやこだわりが充分込められた素晴らしい作品ばかりでしたが、公平かつ厳正な審査のもとで、2010年度「日本ジュエリー大賞・経済産業大臣賞」、「厚生労働大臣賞」、「東京都知事賞」をはじめとした各賞を決定させていただきました。入賞作品につきましては、2010ジャパンジュエリーフェアで発表、展示を行います。また、年末年始には箱根ラリック美術館への展示も予定されています。ご覧戴きましたら、必ずや国内最高峰のジュエリーに魅了されることでしょう。

2010年度「JJA ジュエリーデザインアワード」は、従来の第1部門をパーティーシーンに限らずフォーマルシーンに相応しいジュエリーとして門戸を広げ、第3部門は「真珠」をテーマにするなど現代にあわせ応募を受け付けました。応募作品は、デザイン、技術、着想の各視点においてもそれぞれに特徴が表現されており、大変優れたものが多かったと思

います。また製作にあられた各位には敬意を表します。

さて、こうしたコンテストを通じ、国内のみならず海外にも日本ジュエリーの優秀さを訴えて行くことで、ワールドワイドに確固たる地位を築き上げることが可能になると思います。JJAでは、現在、国内市場の活性化、海外進出事業の推進を積極的に展開しています。国内市場の拡大には、海外製品と共存共栄を果たしながら日本製品の良さをアピールしていかなくてはなりません。海外においては、存分に差別化を行いシェアの拡大を図りたいものです。付加価値をどこに見出すのか、デザインでしょうか、技術でしょうか、あるいは品質、サービスなのでしょうか、戦略立案に成否がかかってくるでしょう。話はそれましたが、アワード作品も大いにPRに活用して行くつもりでありますので、ご期待いただけるのではと思います。海外ジュエリーの歴史に怯える必要はありません。必ずや日本の文化に基づく日本のジュエリーがひとつの市場を形成する時代が来ると私は信じています。



社団法人日本ジュエリー協会
ジュエリープロモーション部会
アワード分科会長

梶 光夫

Kaji Mitsuo

日本ジュエリーの最高峰を求めた「JJA ジュエリーデザインアワード2010」が今年も開催され、全国から優れた作品が多数応募されました。

このアワードは世界に誇れる日本のジュエリーデザイン及び製作技術を発信する場とし、日本ジュエリー文化のさらなる高揚を目的として開催されています。

例年、第1部門「フォーマルシーン」、第2部門「カジュアルシーン」、第3部門「クラフト&ギフト」、第4部門「新人部門」として4つの部門を設けて様々な角度から優秀な作品を募っていますが、今年から第3部門をテーマ部門「パールジュエリー」と新しくし、特定の素材をテーマとした作品を募り、より宝飾のコンテンツとしての内容を充実させました。この部門は2年ごとにテーマとなる素材が変わる予定ですが、第1回目となる今年は日本が世界に誇れる“パール”としました。

今回のアワードは、全体的に見て今の時代を反映させた応募作品が多いように感じました。全体的にコンテンツ的な作品というよりも控えめなデザインであるように感じましたが、応募者ひとりひとりの思い入れが感じられる作品が多かったように思います。また、新人部門ではユニークなデザインが多く、これからのジュエリー界を担っていく若い力が育っていると感じ、大変嬉しく思いました。

回数を重ねるごとに優秀で個性溢れる作品が応募され、充実したアワードではありますが、以前から私たちジュエリー協会では、「世界に発信できる日本ジュエリーの最高峰を求めて」というテーマのもとに応募

された優秀な作品を業界内外の多くの人の目に触れてもらう機会を作りたいと考えてきました。そしてこの度、その想いが実現し、今年の年末から来年の年始にかけてアワード受賞作品が箱根ラリック美術館に展示されることとなりました。

箱根ラリック美術館は、アール・ヌーヴォー期からアール・デコ期にかけて宝飾作家・ガラス作家として活躍したルネ・ラリックの作品の数々が展示されている世界的に稀少な美術館です。また、今年はラリックの生誕150年にあたる年であり、宝飾作家として名高いラリックの記念すべき時にアワードの受賞作品が展示されることは大変意義深いことであり、受賞者の励みになると感じています。そして、ラリックが自身の創作する宝飾の美しさで世の中の人々に驚きと感動を与え一世を風靡したように、今回美術館に飾られるアワード受賞作品も来場される方々の心に深く焼き付く作品となることを願っています。

また、デザインアワードの授賞式となる会場には箱根ラリック美術館所蔵の貴重なラリック作品の数々が展示され、会場を飾ることとなりました。

今後もこのような交流が生まれることにより、アワードの存在が広く知られ、ジュエリーデザインに携わる方々の作品が世の中に知られることに繋がっていくことを期待しています。日本ジュエリー協会では今後もさらに活動を活発化させ、日本ジュエリー文化・産業の振興・発展、そして人材を育てることを使命としてさらなる努力をしまいたいと思っております。

審査員 講評



東京都現代美術館 シニア・キュレーター
関 昭郎 *Seki Akio*

私は歴史という視点からジュエリーと人との関係に興味を持ってきました。人々の美意識や精神的欲求をそれぞれの時代のジュエリーは物語ります。それらはモチーフであったり、色彩やフォルムなど表現のシャープさ、力強さ、繊細、やわらかさであったりします。

今回のJJAジュエリー・デザイン・アワードの応募作253点を見る限り、ハイ・ジュエリーの豪華さやマッシヴな感覚よりも、現在は繊細さや控えめな色彩のビジョーの時代であると言えるでしょう。

株式会社桑山の大賞受賞作はインドの伝統七宝の色彩感覚やヨーロッパのレースの付け襟など、複数のソースから巧みに独自の表現を作り上げた点で特に評価したいと思います。手仕事を重視している点も、制作者が受け手との時間共有しようとする現代アートとも一致し、説得力があります。

このほか、豪華なパヴェによる装飾文様をドライな感覚にまとめられた第一部門佳作の川田紀夫さん、生命誕生という今日的な関心ともつながる菌を着想源とした中島絵美さんの新人優秀受賞作は印象に残りました。



卓越技能者
入倉徳明 *Irikura Noriaki*

JJAジュエリーデザインアワードも回を重ね関係者の努力に依って充実されて参りました。この期待のもとに幕が開かれました。ジュエリーの最高峰を極めたこのコンテストに製作者の立場として審査の責任を背に参加させて頂きました。今回出点数が若干減少された様ですが集まった作品一点一点が力強く何かを訴えている様感じさせてくれました。先ず大賞に輝いた作品、ボリュームは他を圧倒する迫力大胆なデザイン繊細なパーツの組合せ樹脂七宝を加える等この大作に係ったスタッフの技術と努力に敬意を表します。

第2部門の作品は同一金属の表面をテクスチャーの難易度の高い技法白と黒のダイヤを巧みに使った仕上りの良さです。

第3部門に於いては身近な市場性を加味した提案もほしかった。第4部門は更に大胆な夢のある素材、CAD等の導入も期待します。



ジュエリーコーディネーター1級有資格者
上村 道 *Kamimura Sho*

フリーランスのジュエリーコーディネーターとして、長年、販売スタッフの指導育成を中心に活動してきましたが、商品ではない「作品」を「審査」するのは、初めてでした。どの作品にも、その背景に作り手の努力があることを思うと、コンテストというものの厳しさを、今更ながら実感させられる経験でした。

印象深かった作品に共通したのは、そのジュエリーを販売現場でどのように位置づけ、訴求していったらよいのか、具体的なセールストークまで含めて、すぐにイメージが浮かんだことです。コマーシャル・デザインである以上、これは重要なポイントでしょう。

「日本のジュエリー業界の未来を担おう！」という気概に溢れた作品が、今後ますますこのコンテストに登場してくることを、心から期待しています。



華道家
假屋崎省吾 *Kariyazaki Shogo*

フォーマルシーンは全体的に非常にレベルも高く職人芸を駆使した作品が多く揃い、商品価値があり、パーティシーンでも実際に使えるなど溜め息の出る思いでした。カジュアルシーンはとても遊び心があったり、小さいながらもキラリと光るメッセージ性があったりと実際に指にはめながら選ばせて頂きました。パールジュエリーは何とんでも日本が世界に誇る文化と歴史をより一層発揮させた作品がかなりありました。新人部門は、素材の使い方に工夫が凝らされていて目を見張る作品が多く、思いもよらない斬新なアイデアにびっくりしました。ただ、ジュエリーという煌めき感では物足りない出品作もあったことは事実です。全体的に花や昆虫などの自然や建築的な構成力のある作品など、将来の日本のジュエリーデザインの世界を益々輝かしいものに導く光のようなものを感じた審査会でした。



社団法人日本真珠振興会参与
木下 章 *Kinoshita Akira*

今回の『ジュエリーデザインアワード2010』において、第3部門にパール部門が創設されました。日本を代表する宝飾品である真珠を別枠として扱うこととなったのは、恐らく日本にとって真珠は最も大切な宝石であり、それを進化させるデザインの開発は、今後日本の宝飾品の素晴らしさを世界に伝えていく上で重要な役割があるからだと思います。

日本真珠振興会会長賞を贈らせていただきました「春日大社の砂ずりの藤」をテーマに作られた作品は、出品された商品の中でも最も日本的な作品であり、神社の『朱赤』、下がり藤をダイヤモンドで繊細に表現し、真珠に御霊としての存在感が感じられる、完成度の高い作品でありました。

来年度以降さらにこのパール部門への関心が高まり、素晴らしい作品が集まってくることを楽しみにしております。



社団法人日本ジュエリーデザイナー協会会長
菅沼知行 *Suganuma Tomoyuki*

真円真珠のデザインはジュエリーデザイナーにとって難問の一つです。「球」という地球上で一番完璧な形をジュエリーにすることは、うっかりすると余計なものをくっつける作業になりかねないからです。既に解の出ている設問に別の答えを出しなさい、という禅問答のような課題を与えられているといえます。

日本ジュエリーデザイナー協会会長賞の作品は、そのような難しい課題に真正面から取り組んだ潔い作品です。連続する円の組み合わせを「球」とシンクロさせ、真珠のゴールドに調和させた配色が美しく、的確な制作技術できっちりしたジュエリーに仕上がっています。ちょっと緊張感が強いので、これにおっとりした感じが表れるとより完成度が高まると思います。次の作品が楽しみです。



ジュエリージャーナリスト
高木紀子 *Takagi Noriko*

ジュエリーの魅力とは。それは新しい体験をする喜び、嬉しさ。所有欲につながる魅力の要因となると、限りなく多様です。底流にある確かなものは、貴重な、美しい材料を用いた創作品であること。これは今改めて、大事にしたい問いかけではないかと思っています。ならばどんな創作品がいいのか。多様性が進む時代にあって、その答えはまさに多様であり、創作する側にとっては、今の時代ならではの面白さ、挑みがいに満ちたジャンルになったと思います。

今回アワードの審査に参加させていただき、いろんな方向性、いろんな世代とキャリアから成る層の厚さを実感。アワードは時代を写しています。今後ますます、この場を創作の挑みの場として活用し、主催者と応募者のコラボレーションで、次なるジュエリーの魅力の開拓を続けて下さい。



文化女子大学教授
高木陽子 *Takagi Yoko*

美術・デザインの国際交流史を専門とする立場から、審査に参加した。

選出された日本ジュエリー大賞と厚生労働大臣賞受賞作品は、ともに装飾的なものを求める時代の雰囲気巧みにとらえていた。いずれも国外のデザインソース（インドあるいは中近東のエスニック、ルネ・ラリックの七宝を使ったアール・ヌーヴォーのジュエリー）を意識させる。しかし、大賞受賞作に関しては、繊細さ、根気良さを感じさせる作り、左右対称としがちなところをあえてバランスを崩して片側に強いポイントを置いている点など、独創的な編集がされている。

多様な要素をいかに編集するか、われわれが否応なく呑み込まれていくグローバル化時代に向けての一つの答えなのかもしれない。



婦人画報編集長
出口由美 *Deguchi Yumi*

「なにもなにも、小さきものはみなうつくし」と言ったのは1000年も前の日本女性でした。小さく繊細なものに惹かれ、それを大切に愛でる心。精巧に施された細工を鑑賞し評価する心。限られたスペースに表現された調和あるいは破調に対して感動する心... そんな心のDNAを持つ日本人による日本のジュエリー業界こそ、世界でもっとも洗練された顧客 = 日本女性を相手にしている業界なのだと、強く思います。日本由来の素材と伝統技法を大切に、日本人独自の丁寧さと誠意を込めて、そして何より我々が「うつくしい」と感じる感性に自信を持って、日本の「小さきもの」、ジュエリーをもっともっと世界に発信していただきたいです。

今年も応募者多数の中から各賞に選ばれた作品作者の皆様がたに、お祝い申し上げます。ますます研鑽を積み、日本のジュエリー文化発展に寄与なさいますようお願いしております。



ファッションデザイナー
花井幸子 *Hanai Yukiko*

多数の応募作品は大変バラエティに富んだ力作で部門別に整理されていたので解り易く、審査のやりがいがありました。

服とともにジュエリーもライフスタイルの中で幸せな気分を提供できる生活美術だと思うのです。

その視点で作品を拝見しましたが、本物の宝石を使っただけの作品創りは、繊細な作業と技術に裏づけされた努力の賜物と感じました。

コーディネート幅を広げてくれるジュエリーとして、少しデコラティブ過ぎたものもあり、ブローチ等は、もっとウィットのある作品も見たいと思いました。

ジュエリーは、身につけて美しく輝くもの。

クリエイターにとって、時代を反映し、バランス感覚も大切な要素です。

今後また素晴らしく、遊び心のある、美しい作品に出会えることを切に願っております。

審査員一覧 (審査員長以下50音順)

審査員長	関 昭郎	東京都現代美術館 シニア・キュレーター
審査員	入倉 徳明	卓越技能者
	上村 道	ジュエリーコーディネーター 1級有資格者
	假屋崎省吾	華道家
	木下 章	社団法人日本真珠振興会 参与
	菅沼 知行	社団法人日本ジュウリーデザイナー協会 会長
	高木 紀子	ジュエリージャーナリスト
	高木 陽子	文化女子大学 教授
	出口 由美	婦人画報 編集長
	花井 幸子	ファッションデザイナー
	堀 奉之	社団法人日本ジュエリー協会 会長
特別賞選定員	木下 章	社団法人日本真珠振興会 参与
	菅沼 知行	社団法人日本ジュウリーデザイナー協会 会長
	武者 智子	プラチナ・ギルド・インターナショナル トレードマーケティング部マネージャー

応募作品・点数

プロフェッショナルゾーン

第1部門	フォーマルシーン	25作品	61点
第2部門	カジュアルシーン	38作品	61点
第3部門	テーマ部門「パールジュエリー」	25作品	41点

新人部門

第4部門	新人部門	52作品	90点
		計140作品	253点

入選作品 44作品 94点

日本ジュエリー大賞・経済産業大臣賞
厚生労働大臣賞
東京都知事賞
日本ジュエリー協会会長賞

日本ジュエリー大賞・経済産業大臣賞 第1部門 技術賞

株式会社 桑山 製作者/応募者

Kuwayama Corporation

デザインプロジェクト代表 西野 淳 デザイナー

女性の最も美しい体のライン「首から胸」「肩から背中」に布地のように柔らかくフィットする事を心がけました。

本体はわずか5 mmの2種のパーツだけで構成されています。エナメルの色どり、それによって一層輝きを増すダイヤ、仕上げはナチュラルなドレープを描くチェーンのラインです。

- 2004 JJA ジュエリーデザインアワード2004 都知事賞
- 2005 JJA ジュエリーデザインアワード2005 グランプリ・都知事賞
- 2006 JJA ジュエリーデザインアワード2006 都知事賞・プラチナギルド・インターナショナル賞
- 2007 JJA ジュエリーデザインアワード2007 グランプリ・ジュエリー協会会長賞
- 2008 JJA ジュエリーデザインアワード2008 厚生労働大臣賞・優秀賞

K18/D/ネックレス・ピアセット



厚生労働大臣賞



簗和田幸恵 デザイナー

Minowada Yukie

[製作者] 簗和田 元

[応募者] ミノワダジュエリークラフト

[作品名] 休息

柔らかいカスミ草に包まれた静寂の中でひとときの休息をするアゲハ蝶を表現しました。

2003 ミノワダジュエリークラフト設立

2005 JJA ジュエリーデザインアワード 入選

2006 JJA ジュエリーデザインアワード

グランプリ・経済産業大臣賞

2007 JJA ジュエリーデザインアワード

プラチナギルド・インターナショナル賞・技術賞・優秀賞

2008 JJA ジュエリーデザインアワード 入選

2009 JJA ジュエリーデザインアワード 入選



K18/D(七宝)ネックレス・イヤリングセット

東京都知事賞
日本真珠振興会会長賞



中尾美穂 デザイナー
Nakao Miho

[製作者/応募者] 株式会社 ナガホリ

[テーマ] 雲を出る月

春日大社の砂ずりの藤をモチーフに古より変わらない美しく神聖な月の姿を真珠で表現致しました。

雲に隠れていた月が現れる一瞬の情景を表現する為に製作に携わって下さった方々とイメージを共有でき感謝致しますと共に大変嬉しく思っております。

- 1984 武蔵大学人文学部卒業
- 1987 赤坂宝石彫金学院卒業
- 2005 タヒチアンパールトロフィージャパン プレスレット部門2位
- 2006 第31回インターナショナル パールデザインコンテスト 入選
- 2007 タヒチアンパールトロフィージャパン
リング部門1位・grazia賞
- 2008 JJA ジュエリーデザインアワード2008 東京都知事賞



K18WG/シロチョウ真珠/D/ ネックレス・イヤリングセット

日本ジュエリー協会会長賞



小笠原玲子 デザイナー/応募者
Ogasawara Reiko

〔製作者〕 株式会社 二輝

〔テーマ〕 愛の扉 - la porte d amour -

真実の愛を知る女性の、優美な心と魂の気高さを、大輪のカサブランカで表現致しました。愛の扉が開き、運命の人と結ばれる永遠の愛の絆の証として、蝶のブローチはカサブランカの花びらにも、男性の胸元にも着けることができます。心揺さぶられる作品に出逢えましたこと、職人の皆様に心より感謝致します。

- 1953 神奈川県生まれ
- 1974 フェリス女学院短期大学卒業
- 1975 山脇美術学院卒業
- 2006 フレッシュマンジュエリー・デザイン・コンテスト2006
デザイン画入選
- 2008 フレッシュマンジュエリー・デザイン・コンテスト2008
入選
- 2008 JJA ジュエリーデザインアワード2008
日本ジュエリー協会会長賞・技術賞
- 2009 香港 South Sea Pearl Jewellery Design Competition
Others部門 Bronze賞
- 2009 JJA ジュエリーデザインアワード2009 優秀賞



K18 (WG・YG)D/ヘッドドレス・ブローチセット

プロフェッショナルゾーン
第1部門
フォーマルシーン

優秀賞



中山恵美 デザイナー

Nakayama Emi

[製作者/応募者] 株式会社 ナガホリ

[テーマ] 竹林・古都への想い

日本人の感性を象徴するもののひとつといえる竹林。真っすぐに伸びる凛然とした姿のみならず、風が通り抜ける際のざわめきは心地よく想像力をも刺激します。そんな風情を感じながらデザインいたしました。

- 1988 ヒコ・みづの宝石専門学校卒業
- 1991 インターナショナルパールデザインコンテスト 銅賞
- 1992 PGI クリエーターハウス '92 PGI 特別賞
- 2006 JJA ジュエリーデザインアワード2006 佳作
- 2007 タヒチアンパールトロフィー・ジャパン2007-2008 セットジュエリー部門1位・marisol 賞
- 2007 JJA ジュエリーデザインアワード2007 東京都知事賞
- 2008 JJA ジュエリーデザインアワード2008 佳作・日本真珠振興会会長賞・技術賞
- 2009 JJA ジュエリーデザインアワード2009 日本ジュエリー大賞・経済産業大臣賞



K18WG/D/ ネックレス・イヤリングセット

佳作



K18WG/D/ ブローチ・イヤリングセット

川田紀夫 デザイナー/応募者

Kawada Norio

[製作者] ミルフォード

[作品名] 迦楼羅 Karura

炎の中に現れる伝説の火の鳥、迦楼羅。想像の中で一瞬一瞬現れては消えていく...、その炎の力強さと変幻自在に姿を変える様を厳選された最高品質のダイヤモンドと細工者の卓越した技術によってハイジュエリーとして仕上げました。



Pt900/D/ネックレス・リング・ピアスセット

小寺智子 デザイナー

Kodera Tomoko

[製作者] ニューコーゲイ株式会社

[応募者] 株式会社 柏圭

春、雨上がりの朝、野原の草花に朝露が輝いています。まるでダイヤモンドのように。蝶ちょがヒラヒラと舞っています。まるで野原に咲く花々のエネルギーを感じとっているかのようです。そんな情景をイメージしてつくったジュエリーです。

入選



K18・Pt900/D/ペンダント・ピアスセット

青木麻耶 デザイナー
Aoki Maya

〔製作者〕 岩崎裕司
〔応募者〕 株式会社 今与



K18 WG・パープルG YR/トパーズ・D/ペンダント・イヤリングセット

田口広明 デザイナー/製作者
Taguchi Hiroaki

〔応募者〕
株式会社ジュエリー・ミウラ



K18/シトリン/スピネル・D・パール(赤銅)純金箔 Yペンダント・リングセット

市川和彦
Ichikawa Kazuhiko



K18・Pt900/D/トパーズ/リング・ペンダントセット

石井恵理子 デザイナー
Ishii Eriko

〔製作者〕 周防貴紀
〔応募者〕 ジュエリークレスト



Pt900/E/D/ブローチ*ペンダント・リングセット

小原祥子 デザイナー
Kohara Sachiko

〔製作者/応募者〕
株式会社 小原製作所



K18 WG・パープルG Yタンザナイト/D/ リング・ペンダント・イヤリングセット

早川真由美 デザイナー
Hayakawa Mayumi

〔製作者/応募者〕
株式会社ジュエリー・ミウラ

プロフェッショナルゾーン
第2部門
カジュアルシーン

優秀賞 技術賞



木村浩子 デザイナー

Kimura Hiroko

〔製作者〕 落合繁寿

〔応募者〕 G jewel by ROKO

コンセプトは世界平和。
地球には異なる国や人種が存在し、戦争や差別が絶えないが、大きく見れば同じ人類で、同じ大陸上で生活する生物。それを18Kの土台で表現。モチーフは超大陸パンゲア。5大陸を各表面加工で区切り、更に異なった5分割をすることで各ピースが宝石同様、人種や生物の多様化の素晴らしさを表しています。

- 1978 大阪生まれ
- 2008 G.I.A. G.G. 取得
G.I.A. デザイン/ワックスコース 修了
第2回G.I.A. AAJジュエリーデザインコンテスト 特別賞
- 2009 JJA ジュエリーデザインアワード2009 入選
- 2010 Suwaラフダイヤモンドメンズジュエリーコンテスト 優秀賞
G jewel by ROKO ブランド 創立



K18/D/ネックレス・ピアスセット

佳作
プラチナ・ギルド・インターナショナル賞



Pt900/D/リング

寺内英一郎

Terauchi Eiichiro

ダイヤモンドが宙を舞う様を表現しました。

立体的なラインと重なり合うダイヤモンドが特徴です。

躍動感あるデザインの中で、どんな方向から見てもバランス感があるように製作しました。

佳作



Ag925/シェル/D・S・トルマリン/リング

松下隆宣 デザイナー/製作者

Matsushita Takano

[応募者] 松下宝飾

私のジュエリーは、生物の形態を、モチーフにし、神秘的なシェルの輝きと、組み合わせ、造形しています。身に付けていない時も、小さな彫刻として、楽しませてくれるジュエリーを目指します。この作品では、手を動かすと、ウミウシが螺旋を、上下に移動したり、指間にフィット、外れ難い重心バランス形状に、工夫しました。

入選



K18WG/D/ パール/ペンダント*ブローチ

中村孝則 デザイナー/製作者 [応募者] 中村宝飾工芸
Nakamura Takanori



Pt900・K18/ パール・S/D/ ペンダント

佐藤剣二 デザイナー/製作者 [応募者] 佐藤宝飾
Sato Kenji



K18/D/ペンダント・リングセット

中島彩乃 デザイナー [製作者] 菊井一夫
Nakajima Ayano [応募者] 株式会社 彩



Pt900・K18/S/D/ リング

中島彩乃 デザイナー [製作者] 菊井一夫
Nakajima Ayano [応募者] 株式会社 彩



K18/ バイライト/リングシリーズ

藤森 隆 デザイナー/製作者 [応募者]
Fujimori Takashi オーダーメイドジュエリーアダン



K18 WG・YG ヲトルコ石/D/ リング

内藤詩子 デザイナー/応募者 [製作者] 田中良和
Naito Utako

入選



K10(YG・PG)・Ag925/D/ブローチ・ピアス・カフセット

名取洋佑
Natori Yosuke



K18(YG・PG)・Ag950/トパーズ/アクワマリン・D・マルチ(赤銅)ブローチ・ペンダントセット

小谷祐司
Kotani Yuji

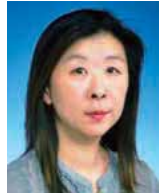


K18/アンバー/D/ネックレス・リング・ピアスセット

小笠原麻子 デザイナー [製作者] 高田千尋
Ogasawara Asako [応募者] A・OCCHIO

プロフェッショナルゾーン
第3部門
テーマ部門「パールジュエリー」

優秀賞
日本ジュウリーデザイナー協会会長賞



和田のぶみ デザイナー

Wada Nobumi

[製作者/応募者] 株式会社 ナガホリ

和の文様「七宝つなぎ」
縁起が良いとされる吉祥文様の七宝つなぎに小花を散らし、
美しい真珠をあしらいました。
円形は円満を表します。そのつながりは、心の平安をもたらすでしょう。
和の文様をモダンにお楽しみいただきたいジュエリーです。

1962 東京生まれ
1983 成城短期大学卒業
1985 ヒコ・みづのジュエリーカレッジ卒業
インターナショナルパールデザインコンテスト 入選
インターナショナルパールデザインコンテスト 佳作

その他



K18 (WG・YG)シロチョウ真珠/D/ブローチ・リング・イヤリングセット

佳作



K18/アコヤ真珠/リング

伊藤達美

Ito Satomi

朝日に当たる蓮の葉に輝く水滴をパールで表現してみました。



K18WG/パール/D/リング

内藤詩子 デザイナー/応募者

Naito Utako

[製作者] 田中良和

“パールがどんどんあふれ出てくる”というイメージでデザインしたリングです。

はずして置いた時にも楽しめるように、小さなパールとダイヤを、裏側や側面からも見えるよう配置しました。少しずつ色の違うパールのお美しさを愛んでもらえたら、と思います。

入選



Silver・K18/アコヤ真珠/ペンダント

平林麻紀 デザイナー/製作者 [応募者]
Hirabayashi Maki ジュエルプラザ ひらばやし



Pt900/コンクパール/D/リング

杉原敏之 デザイナー [製作者] 奥野剛司
Sugihara Toshiyuki [応募者] 有限会社 ルネッサンス・ジェム



Silver/淡水真珠/リング

田中清月 デザイナー/製作者 [応募者] アトリエ T2
Tanaka Satsuki



Ag925/パール/リング*ペンダント

高橋美涼 デザイナー/応募者 [製作者]
Takahashi Misuzu 株式会社 アルファ 21



Ag925/アコヤ真珠・D・R・アメシスト・メノウ・ガーネット/リングシリーズ

島村弘美 デザイナー [製作者/応募者]
Shimamura Hiromi 大橋敬弘



Ag1000・Silver/淡水真珠/ブローチ・イヤリング・リング・ピアスセット

江原真理子
Ehara Mariko

入選



Ag925/ アコヤ真珠/かんざし

吉田裕子

Yoshida Yuko

第4部門
新人部門

新人大賞



山本晋平
Yamamoto Shinpei

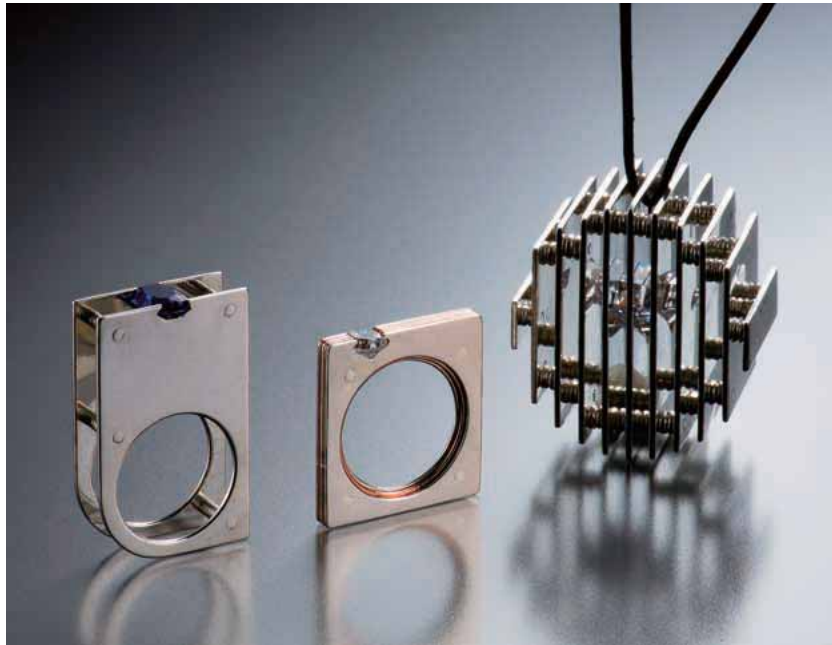
日本建築を参考に、奥深い世界を表現し、リングを回転させる事で、鍵が開き中の筒が抜け、その天井部にガーネットで太陽を、蓮を包む筒で水を表現し、三つのデザインで、天界を現し表には見えない、人が心の中で願う事や考えを表現し、またその中にオミクジを入れ、その日の運を知る事が出来るようにしました。

1983 埼玉県生まれ
2009 パールジュエリーデザインコンテスト 佳作
2010 日本宝飾クラフト学院卒業
2010 日本ジュエリーアート展 入選



Ag950・K18/CZ/象牙・パール・ガーネット/(赤銅×カシュー)/ペンダント

新人優秀賞



Ag950・Cu/CZ・シンセチックS/ペンダント・リングセット



Ag925・Ag950/CZ/トルマリン/ブローチシリーズ



大塚 岳
Otsuka Gaku

『口ウ付け環境がなくても地金からジュエリーは作れる』というのがコンセプトです。強度の問題でシンセチックSを使ったリングの支柱のみ口ウを流しましたが、それ以外の口ウ付け箇所はゼロです！

- 1988 長野県生まれ
- 2008 第12回パールジュエリー・デザインコンテスト最優秀賞
- 2009 日本宝飾クラフト学院大阪校卒業
- 2009 JJAジュエリーデザインアワード2009 新人優秀賞
- 2009 自身のブランド『GacU』をスタート



中島絵美
Nakashima Emi

花の部分であるキノコが、表に出てこない限り、人はその存在に気づかないけれど、目に見えない所で、ひっそりとたくましく増殖しつづけているキノコ。不思議な世界の、ほんの一部を表現しました。

- 1973 愛知県生まれ
- 1996 名古屋造形芸術短期大学卒業
- 2007 日本宝飾クラフト学院 総合学科卒業
- 2008 日本ジュエリーアート展 入選
- 2008 JJAジュエリーデザインアワード2008 新人優秀賞

新人優秀賞



真鍮/リングシリーズ



八丸 愛
Hachimaru Megumi

『SEGMENT』
この作品は鉾物をモチーフにしたリングシリーズです。無機質の中から覗く、ふとした面白さや美しさを切り取っていく感覚でデザインしています。偶然に見つけた、自分が綺麗だと思った瞬間をそのまま身につける事ができたら素晴らしいのではないかという思いで製作しました。

1987 鹿児島県生まれ
2010 武蔵野美術大学卒業

入選



Ag950/CZ/リング

平良 司
Taira Tsukasa



Ag925/ クロチョウ真珠/ムーンストーン・ベリル/ブローチ*帯留め*ペンダント

佐藤真実子 デザイナー/応募者 [製作者] 高田千尋
Sato Mamiko



Ag950/CZ・シトリン/リングシリーズ

山本有紗
Yamamoto Arisa



Silver/クォーツ/リング・ネックレスセット

三島一能
Mishima Itto



Silver/S・ガーネット・マイオナイト・トルマリン・ベリドット・フェルト/リングシリーズ

石山千詠
Ishiyama Chie

| 社団法人 日本ジュエリー協会

| ジュエリープロモーション部会

| 担当副会長
望月 修

| 部長
亀山 実

| アワード分科会長
梶 光夫

| アワード分科会委員
浅井 文昭
近藤 誠
坂巻 章雄
高橋 博文
松崎 憲子
山本 真理
横山 裕

| オブザーバー
川崎 猛

編集
社団法人 日本ジュエリー協会 ジュエリープロモーション部会

撮影
Studio A-Vipc

印刷
山口北州印刷株式会社

発行日
2010年9月1日

発行
社団法人 日本ジュエリー協会
〒110-8626 東京都台東区東上野2-23-25
TEL(03)3835-8567 FAX(03)3839-6599
<http://www.jja.ne.jp> E-mail:ja@jja.ne.jp

禁無断転載複写



社団法人日本ジュエリー協会